

校内研修計画

甲州市立神金小学校

2012.5.9

1 学校課題

本校の学区は甲州市北東部、標高 600 ~ 1000 mの重川・文珠川扇状地に広がり、周囲を大菩薩などの山々に囲まれた自然豊かな地域である。雲峰寺や神部神社、金井加里神社などの歴史的文化遺産が数多く存在している地域でもある。学校教育に対しては、理解と関心が高く、非常に協力的である。

78 人の全校児童は明るく素直で人なつこく、個性を發揮しながら元気に学校生活を送っている。単学級のため、友人関係が固定化している面もあるが、休み時間や放課後には学年を越えた交流も多く、諸活動でも上級生が下級生の面倒を見ている姿をよく目にする。道徳的心情や実践力は、日々の学校生活の中で十分培われているように思える。

学習面では、個人差はあるが真面目な態度で学習に取り組み、与えられた課題に対しては前向きに取り組もうとする児童が多く、昨年度までの読解力に視点をあてた国語や社会、算数など様々な授業実践の成果も見えはじめ、少しずつであるが、複数の資料を読み取る力や、授業での事前事後の感想等を比較してみると、感想の内容からも読みの高まりが見られるようになってきた。しかし、自分で考え、自分で判断し、実行していく態度や問題を解決するための能力、根拠に基づいた論理的な考え方などが、なかなか出来ないなど課題は、まだまだ残されている。

研究を推進するにあたり、まずは、QUや学習意欲に関するアンケート等を実施する中で児童の実態を把握し、不足している力や指導が必要な面を明らかにしていきたい。また、それに基づいての基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けた指導の工夫・改善、思考力・判断力・表現力の育成をめざし、「読解力を高める授業づくり」をテーマに、共通理解のもとで取り組みを焦点化させていくことが重要であろう。「確かな学力」の育成をめざし、基礎基本の習得と、読解力向上をめざす研究実践が求められる。

2 研究主題

「自ら考え、進んで学習に取り組む児童の育成」

～ 読解力を高める説明文の指導を通して～

3 主題設定の理由

情報の伝達手段が発達した現代社会では、テレビやインターネット、多くの書物から情報を得ることができる。これらの中には、信頼性の高いものもあれば、そうでないものも含まれている。このような社会状況の中で、児童が必要な情報を選択し正確に読み

取るためには、情報が正しいかどうかを判断し、内容について筋道を立てて考える力が必要となってくる。

これに関連して、文部科学省がPISA調査の分析結果から取り組みを立ち上げた『読解力向上プログラム』（平成17年12月）では、現行学習指導要領国語の「自分の考えをもち論理的に意見を述べる能力」や、「目的や場面に応じて適切に表現する能力」、「目的に応じて的確に読み取る能力」を育成することにふれ、「PISA型読解力と相通ずるものがある。」と記載している。これは、PISA調査から明らかになった課題と学習指導要領が重視している能力の共通点が述べられており、課題解決のために「考える力を中核とした読む活動と書く活動」の充実を図ることを指摘している。その後告示された小学校学習指導要領解説国語編総説（平成20年8月）には、「課題を踏まえ、言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力の育成」が明記され、筋道を立てて考え表現する能力を重視していると捉えることができる。

さらに、『全国学力・学習状況調査分析説明会分析資料』から、国語科の課題の一つに、「自分の考えをまとめ、様々な目的や条件に即して相手に伝わるように書く力が弱い。」ことが指摘されている。その要因としては、「自分の考えをまとめるために目的や場面に応じて読む活動や、本文に基づいて自分の思いや考えを相手に伝わるように書く力が弱い。」ことが指摘されている。

そこで本研究では、説明的文章において、考える力を中核として、まず「読む活動」の工夫を行い、筆者の文章の書き方のよさや問題点を読み取り、根拠に基づいて自分の考えを読み取ることで、論理的に考える力が育成できると考えられた。

昨年度から完全実施された新学習指導要領では、各教科において、基礎的・基本的な知識・技能の習得を重視した上で、観察・実験やレポートの作成、論述など知識・技能を活用する学習活動を充実し、思考力・判断力・表現力等を育成することが求められている。

これらの社会的背景や本校の課題から、国語科の学習活動においても自分の考えをもち表現するために必要な論理的な思考力を育成することが求められる。筋道を立てて考えるための能力をはぐくむためには、筆者の論理的な見方や考え方によって書かれた説明的文章の指導が効果的であると考えられる。

本校の児童をみても、自分で考え、自分で判断し、実行していく態度や問題を解決するための能力や論理的に思考する能力に課題があるといえる。この課題を解決していくには、新学習指導要領で求められている知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力を育成することが必要であると考えられる。

山梨県においても、子どもたちが社会で豊かな生活をおくることができるよう、文章や資料などを解釈し、熟考・評価し、自らの考えを表現していく力を育成することをめざし、「社会生活にいきる読解力向上推進事業」が進められている。その「読解力」の具体的なとらえ方は、

様々な文章や資料を理解・評価しながら「読む力」を付ける。

ア 目的に応じて理解し、解釈する力 イ 評価しながら読む力

ウ 課題に即応した読む力 エ 多様なテキストに対応した読む力

テキストに基づいて自分の感じたことや考えたことを簡潔に書く力を付ける。

ア テキストを利用して自分の考えを書く力

イ 日常的・実用的な言語活動を生かす書く力

ウ 自分の感じたことや考えたことを簡潔に書く力

である。一昨年度より「読解力」について研究を進めてきたが、本年度はその研究を継続しながらも、「読解力」を高める工夫にはどのようなものがあり、発達段階でどのように変わってくるのかなど、「読解力」を明確にしたうえで、目の前にいる児童にどのような力をつけていくのかをさぐり、授業の工夫・改善につなげたい。

これらの研究・取り組みを進めることで、「読解力」が高まるような活動が取り込まれ、自ら考え、進んで学習に取り組む児童を育成することにつながるのではないかと考え、本研究主題を設定した。

4 研究目標

説明文の学習において、「読む活動」と「書く活動」の指導法を工夫することで、子ども達の論理的に考える力を育むことができることを授業実践を通して明らかにする。

5 研究の具体的内容と方法

(1) 研究内容

読解力を高めるための授業の工夫・改善

- ・読解力を明確にするための実態調査の実施
- ・説明的文章の指導法を探るための理論研究
- ・QUの分析と具体的な活用法

読解力を高めるための日常的な活動の工夫

- ・日常活動での読解力向上取り組みの実施
- ・言語環境の整備

(2) 研究方法

「読解力」を明確にとらえるために指導主事を招聘し、学習会を行う。

説明的文章を用い「読解力」を明確にし、「読解力」に視点を当てた授業実践による授業公開をし、互いに学び合う場を持つ。

(3) キャリア教育についての研究と指導計画の作成

・キャリア教育の教育課程と指導計画の作成

6 研究組織

研究推進員 ... 校長 教頭 教務主任 研究主任 ブロック長

低学年ブロック			高学年ブロック		
・教頭先生	筒井先生	・飯室先生	・校長先生	・水上先生	・大村先生
・廣瀬先生	清水先生	・逸見先生	金井先生	三森先生	

...ブロック長

...授業者

7 研究計画

回	月/日	内 容	担 当
1	4 / 4	・今年度の研究の方向性について	研究主任
2	4 / 11	・今年度の研究のテーマ、内容、計画について	研究主任
3	5 / 9	・今年度の研究のテーマ、内容、組織、計画等の決定 ・研究テーマに関わる学習会	研究主任
4	5 / 23	・研究テーマに関わる学習会	研究主任
5	6 / 6	・研究テーマに関わる学習会 《T・C要請》	研究主任
6	6 / 27	・キャリア教育に関わる学習会	キャリア教育担当
7	7 / 6	・授業実践 4年生(研究主任)	授業者
8	8 / 8	・教育課程説明会環流報告会 ・QUの分析と活用について	各担当
9	9 / 5	・ブロック研究会	ブロック長
10	9 / 12	運動会練習開始...中止予定	
11	10 / 3	・ブロック研究会 ・キャリア教育に関わる学習会	ブロック長 キャリア教育担当
12	10 / 17	・授業実践 《T・C要請》	授業者
13	10 / 24	・ブロック研究会	ブロック長
14	11 / 7	・授業実践 《T・C要請》	授業者
15	12 / 12	・ブロック研究会	ブロック長
16	1 / 30	・ブロック交流研究会	ブロック長・研究主任
17	2 / 20	・校内研究成果と課題について	研究主任
18	3 / 6	・研究紀要作成・製本	研究主任